

年縞博物館

「世界標準のものさし」と呼ばれる『年縞』に対する理解を深めてもらうため、標本展示施設と研究施設を整備した。ラムサール条約指定湿地に登録され、また、名勝にも指定される「三方五湖」に接しており、自然景観との調和を特に重視している。

「年縞」とは、季節に応じて異なる物質が湖底に堆積することで形成された縞模様の中で、特に三方五湖の一つである水月湖の年縞は、過去 7 万年、45 m にわたって堆積した、世界でも傑出した規模を持つものである。地質学、考古学における『世界標準の年代のものさし』として新たな研究の進展に期待が寄せられている。

建築概要

—設計コンセプト

「年縞」に含まれている花粉等により当時の風景の情報を得ることができる。それらを展示として再生することで、展示室から見える里山の風景と合わせて、古代から現在まで、空間と時間の広がりを見視化することを考えた。「年縞」がこの土地の可能性を予感させる新たな風景となるのではないかと考え、「TIME SCAPES」を外構・建築・展示における全体計画のテーマとしている。

—建築計画

年縞を展示する展示棟と両翼に配置されている研究棟で構成されている。建物の配置計画としては、軸の方向を水月湖に向け、近接する「はす川」と平行配置とすることで、地形に無理なく自然との調和が図られている。

2階建ての展示棟は、1階は RC 造のピロティでスパンの大きい土木的スケールの空間、2階は鉄・木・コンクリートを用いた繊細な建築的スケールの空間となっている。エントランス広場・キャノピーより、緩やかな丘を眺めながら1階のピロティを通過すれば、はす川への視界が開け、さらに自然との融和性を感じることができる。

—構造計画

約 45 m の年縞の標本を展示できる横長の大きな空間を実現しつつ、北陸特有の大きな積雪荷重に耐えること、湖畔の冠水による建物への浸水から展示物を守ること、これらが設計時の必要条件となっていた。積雪深 1.75 m という大きな積雪荷重に耐えながらも意匠性を損なわないために、登り梁に県産杉集成材を 2丁合わせで用い、鋼管トラスを介して屋根荷重を建物中央のコンクリート壁へ集めている。1階は貴重な展示物の冠水対策として、ピロティとしている。柱は 14.4 m の大スパンとなったが、スラブの一部にポストテンションを導入することで構造上の問題が解決されている。

—設備計画

屋根裏および構造現しの意匠であったため、床面スリットから送風を行う床吹出空調方式としている。また床下送風口から末端の床面スリットまで約 45 m のロングスパン床下チャンバーが配置されている。さらに冬期における送風空気温度の低下が懸念されたため、CFD モデルを構築し、温度調整や送風がバランス良く行われることで、滞在しやすい快適な空間となっている。

照明計画では、鉄骨トラスの足元にライン照明を仕込み、木架構と天井を照らすことで、天井からのバウンド光が木質の空間を柔らかく包み込む温かい空間となっている。

建築データ

所在地	三方上中郡若狭町鳥浜 地係
主要用途	博物館
設計者	建築 (株)内藤廣建築設計事務所
施工者	建築 (株)前田産業、(株)ともえ屋JV
	電気 日東電気(株)
	機械 前田設備工業(株)
敷地面積	6,409.31 m ²
建築面積	1,929.76 m ²
延床面積	1,779.35 m ²
階数	地上2階
構造	木・鉄骨・RC混構造
工期	2017年3月~2018年5月







